

別冊やまびこだより

福祉教育 実践事例集

2019-2021

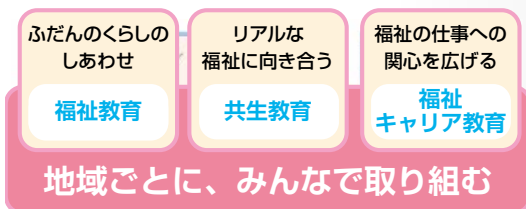


社会福祉法人
長野県社会福祉協議会

ふだんのくらしのしあわせ

私らしく暮らすため、地域の一員として何ができるだろう。

福祉教育とは「思いやりの心をもって、ともに育ち、ともに生きるための福祉のこころを育む」ための様々な取り組みのことで、取り組みを通して地域の様々な福祉課題を他人事とせず、我が事として地域全体・住民全体で考えていく福祉観を醸成することが福祉教育には求められています。



その人らしさ、多様性、支え合いなど、「ともに生きる」理念をすべての世代に発信したい。福祉教育推進のプラットフォームづくりを目指した取組がスタートしました。

「ごちゃまぜ」の社会を目指し「ともに生きる」を発信する

2019年に、長野県地域福祉支援計画がスタートし、これを踏まえて、昨年度、県の官民100団体の皆さんと一緒に信州ふっころプランを策定しました。

信州ふっころプランは、地域共生社会の実現を目指して、皆で取り組む共同のアクションプランという意味合いを持ちます。

この中のキーワードに「ごちゃまぜ」があります。ごちゃまぜには、多様性のある地域づくりを進めていこうという意味と、福祉分野を超え、教育分野やまちづくり等多様な分野の人たちと繋がって地域課題を解決していこうという決意が込められています。

福祉教育の重要性

地域共生・信州を目指し「ともに生きる」を発信していくために、一人ひとりが自分たちの地域・暮らしについて考え、ともに暮らしをつくる仲間であることを考えることが大切です。

信州ふっころプランには、「ともに生きる」マインドを発信し、互いを認め合い、多分野と連携しながら、共生の理念をすべての世代に伝えていく福祉教育の重要性を謳っています。

「ふだんのくらしのしあわせ」を自分たちの福祉としてともに考え、「共生の文化」をつくるのが福祉教育の目標です。



県社協ホームページ
福祉教育の
バナーデザインが
新しくできました。

長野県社協ホームページ福祉教育のバナーデザインとして、増田汐里さんに作品協力をいただきました。「ともに生きる」イメージが多くの方に伝わるよう発信していきます。

皆で福祉教育に取り組むために共有したい3つの視点

「ともに生きる」を発信する仲間として、福祉教育の3つの視点を共有し、各団体の持つノウハウやネットワークの活用とその広がりを期待しながら今年度の取り組みを進めます。

1. ふだんのくらしのしあわせ 福祉教育

「ふくし」とは「ふだんのくらしのしあわせ」というキーワードで表現し、特別なことではなく、身近なものとして、多様な世代へ伝えていく広い意味での福祉教育を発信していきます。

2. リアルな福祉に向き合う 共生教育

共生社会を目指し、長野県では共生教育や信州あいサポート運動に取り組んでいます。社会的影響を受ける暮らしの課題などにも目を向け、リアルな福祉に向き合う必要があることを、共生教育を通して考えていきます。

3. 福祉の仕事に関心を広げる 福祉キャリア教育

福祉キャリアの構築を多世代へ働きかけていくことは、持続可能な福祉人材の育成・確保にもつながります。将来的な人材の活躍への期待と、福祉に関わる仕事のさらなる広がりを見据えた福祉キャリア教育を推進します。

福祉教育には、「これをすればいい」という正解や公式がありません。ふだんのくらしのしあわせをどのように地域で実現していけばいいのかということをもみんなで考えていくのが福祉教育です。

みんなで考えていくプロセスでは、自分にとってのふくしの価値を伝え、参加者それぞれの価値をつくっていくことが必要です。

実践事例のご案内 CONTENTS

小中学生ボランティア新聞「やまびこだより」152号～163号掲載の取り組みから掲載事例を4つの視点で分類しています。

やまびこだより 各校の取り組みから学ぼう！

私たちの住んでいる「まち・くらし」の未来を考える

みんなの幸せ・未来のために

地域の「ひと」を知ろう！

地域の
様々な人たちに会い、
話してみよう。

地域活動に 取り組もう！

地域の
文化・歴史・自然に
目を向けてみよう

届けよう！ 私たちの思い

自分たちの
できることを
地域のために

未来へ向けての アクション

未来へ
つないでいくことを
意識しよう

地域の「ひと」を知ろう！

p.4 地域に積極的に関わる

お年寄りとの交流や動物の世話を通して

松本市立 島内小学校

地域の方と一緒に楽しもう！

神科小と「おたすけっす 有志隊」

上田市立 神科小学校

p.5 ハンデを特徴として捉える

パラリンピック出場選手の講演会とポッチャ体験

長野県屋代高等学校 附属中学校

地域の一員として

地域のことを知り、自分ができることを考える

安曇野市立 豊科南中学校

届けよう！ 私たちの思い

p.8 町をきれいにしよう大作戦！

ポイ捨てを減らしたい！ 願いをこめた看板作り

塩尻市立 塩尻西小学校

みんなに届け！ ほくらの笑顔

「くらしの中の小さな幸せ」元気いっぱい届けたい！

諏訪市立 豊田小学校

p.9 ふやそう！ 花と緑とみんなの笑顔

地域の一員として私たちにできること

川上村立 川上第2小学校

輝け！ 木島平未来塾

地域の一員として自分たちができることを

木島平村立 木島平中学校

地域活動に取り組もう！

p.6 地域の元気をみんなで作ろう！

村の観光施設で野菜の管理と収穫体験のボランティア

松川村立 松川小学校

花咲く丘プロジェクト

地域のシンボルつつじの植栽活動から未来を考える

岡谷市立 岡谷西部中学校

p.7 炭焼きにこめる地域への思い

自然を守り伝統を受け継ぐ地域活動を通して

駒ヶ根市立 中沢小学校

地域と共に美麻で学ぶ

自然豊かな美麻の地で、地域支援隊と学ぶ

大町市立 美麻小中学校

地域が誇る明善中

中学生がスタッフ 地域の行事を盛り上げます

松本市立 明善中学校

未来へ向けてのアクション

p.10 地域に積極的に関わる

お年寄りとの交流や動物の世話を通して

中野市立 平野小学校

地域から世界へ

企業や高校との協力を通して学ぶ

信州大学教育学部 付属長野中学校

p.11 地域で取り組む SDGs

地域の良さを発信していくために

飯田市立 竜東中学校

NAGANO SDGs PROJECT について

p.12 福祉教育の実践に向けて

～あなたが担当者だったら～

p.15 福祉教育 取り組みへのヒント

p.16 県内市町村の社会福祉協議会・ボランティアセンター 一覧



地域に積極的に関わる お年寄りとの交流や動物の世話を通して

松本市立 島内小学校

やまびこだより No.152 (2019年度)より



一緒に手遊びをしたり、お茶を飲んだりしました。

ふれあい広場で地域の方々と交流



背中をなでると、気持ちよさそう。



地域の牧場のヤギの世話をしています。

島内小学校は、全校739名の松本市の中でも大規模な学校です。また、今年で開校133周年になる歴史のある学校です。島内小は昔から地域との関わりが深く、地域から学校へ情報が入ると、私たちが地域にどんどん出かけていき、絆を深めています。

毎年代表の学年が地域のふれあい広場に行き、お年寄りの方々と交流していま

す。一緒に体操をしたり、得意技を発表したり、劇を披露したりして交流を重ねています。最後に一緒にお茶を飲むときに、お年寄りの方々の笑顔を見ると、私たちが笑顔になる「元気になる」「若返る」と言ってくれるのを聞いてうれしくなりました。

また、2年生は地域の牧場からヤギを借りて、世話をしています。以前はポニーを他の地区から借りていましたが、島内地

区に牧場があることを知り、それからはヤギを借りていました。ヤギのエサをたくさん用意するのは大変ですが、ヤギがもぐもぐと喜んで食べているのを見ると「やってよかった」と疲れも吹き飛びます。

これからも、地域と関わり深い島内小学校の歴史と伝統を大切に、地域へ積極的に出かけていって地域の方々とたくさん交流をしていきたいと思っています。

活動のポイント

同じ地域で暮らす、多様な世代との交流「多世代交流」は、お互いの学びの機会になります。一緒に活動することで、地域の歴史や風土を自然に感じながら、今の暮らしとの結びつきや新たな発見、役割を体感することになります。



地域の方と一緒に楽しもう！ 神科小と「おたすけっ十有志隊」

上田市立 神科小学校

やまびこだより No.160 (2021年度)より



テニスとピンポンをあわせた「テニボン」



ボール遊び

アルームで、竹馬・折り紙・カルタ取りなど昔ながらの遊びや、「箸使い名人」「お手玉名人」といった段位に挑戦できる遊びを思い思いに楽しんでいます。また、折り紙が得意な方にいろいろな折り方を教えてもらうのがうれしくて楽しみにしている子もいます。

特に人気の遊びは「テニボン」です。お手製のラケットで大人も子どもも手加減なしの真剣勝負に夢中です。

「おたすけっ十 有志隊」の皆さんも子どもたちと交流することに生きがいや張り合

子どもたちが楽しむことで私たちが元気をもらっています。地域の子もたちを大事にしていきたいです。

おたすけっ十有志隊



おたすけっ十有志隊の皆さん

神科小学校は、昔から地域の方々といろいろな形でつながってきました。その特色の一つに、「おたすけっ十有志隊」という地域のボランティアの皆さんが運営するボランティアルームがあります。「おたすけっ十有志隊」の皆さんには学校の授業や行事のお手伝いをいただいています。

子どもたちは毎日休み時間にボランティ

いを感じ、いつも笑顔で迎えていただいています。

このように、ボランティアルームは多くの子どもたちでにぎわっています。これからも地域の方と一緒に過ごす時間を大切にしていきたいと思っています。

活動のポイント

地域には多彩なスキルや経験を持つボランティア活動団体などがあります。教科書には掲載しきれない学びの実践へのよき協力者にもなります。このような団体を知りたい際は、近くの社会福祉協議会に相談ください。



ハンデを特徴として捉える

パラリンピック出場選手の講演会とボッチャ体験

長野県 屋代高等学校附属中学校

やまびこだより No.161 (2021年度)より



障がいによって困ったことはありますか？

山崎福太郎さんとの対話



ボッチャ体験



ボールをジャックボールという目標球に向けて投げます。



私 たちの学校では、体験を交えた福祉学習を行っています。

昨年9月には、パラスキーでパラリンピックに出場した山崎福太郎さんの話をお聞きました。「自分のハンデを『ハンデ』と捉えるのか『特徴』と捉えるのかによって、自分の見える世界が変わる」という感想をもった生徒が多く、障がいに対する見方や考え方を学ぶことができました。

また、パラリンピックの正式種目であるボッチャの体験もしました。決められた場所からボールを投げるというシンプルな競技ですが、「ボールが転がりやすく、狙ったところにうまくいかない」「ボールを目標球のどこに置くかでいろいろと戦略を考えられそう」という感想も出され、奥深いスポーツだと感じました。

「このようなスポーツがもっと広まって、

健全者と障がい者という壁が無い世の中にした」という声も多く寄せられました。この学習を通して、誰もが幸せに暮らせる社会の実現に向けて、一人ひとりがお互いの特徴を理解し合うことの大切さに気づかされました。

活動のポイント

パラスポーツ体験を通じ、共に住み慣れ地域社会で自分らしく生きる「共生社会」を目指すことを考える機会になっています。長野県障がい者福祉センター「サンアップル」では、スポーツや文化活動を通じた、交流企画、ボランティアの養成等事業を行っています。



地域の一員として

地域のことを知り、自分ができることを考える

安曇野市立 豊科南中学校

やまびこだより No.163 (2021年度)より



防災倉庫の備蓄品の確認



発電機の始動確認

万が一に備えて確認と体験をしておこう



公民館の清掃

豊 科南中学校では、地域に住む住民として中学生ができることを考えて活動しています。地区生徒会では、自分たちの地区の防災対策を学習したり、奉仕活動を行ったりしています。

「地域防災学習・地域活動の日」には、地区の避難場所の確認をしたり、地域の防災担当の方に防災倉庫を開けていただき、水や非常食、救急セット、ストーブ、

発電機などたくさんの物が備蓄されていることを確認したりしました。さらに、発電機の始動をしたり、避難用の寝袋に入ったりする体験もして、万が一の時に「備える」ことの大切さを考えるとともに地区に備えがあることを知って安心することができました。

また、地域への感謝の気持ちを込めて、公民

館などでの清掃活動を行いました。活動を通して、私たちは普段何気なく地域で暮らしていますが、地域の方々是我たちが安全に安心して生活できるように活動してくださっていることを知り、今度は私たちが地域の一員としてできることをやっていきたいと考えることができました。

活動のポイント

住民自治協議会の取り組みを知ることで、身近な地域の暮らしの安心や自治活動やボランティア活動の意味を考えるきっかけとなりました。中学生も地域の一員として、自ら考え行動を起こす力を育みます。

地域の「ひと」を知ろう！

地域の様々な人たちに会い、話してみよう



地域の元気をみんなで作ろう！

村の観光施設で野菜の管理と収穫体験のボランティア

松川村立 松川小学校

やまびこだより No.158 (2020年度)より



オクラの収穫体験



小学生ボランティアの僕らが案内します！



バジルの収穫

野菜はこうやって成長するんだ！



地域のボランティアへ感謝の手紙



松川小学校は、「信濃富士」と名高い有明山に見守られながら、穏やかな気候のなかで生徒たちが、のびのびと学べる学校です。地域の方々と交流しながら学校行事を進めていけるのが本校の特徴のひとつでした。今年度は新型コロナウイルスの影響により、いつものような取り組みができなくなってしまいました。

このような中でも、学校として地域に何か役立てないかと考え、観光客の減少した村の観光施設の野菜の管理と収穫体験

を企画しました。夏野菜は、作物が育ちすぎるのを防ぐため、定期的に摘み取ることが必要です。そこで、2、4、5年生が夏野菜の摘果作業などを行うことにしました。収穫したのはきゅうり、なす、ミニトマト、ピーマン、オクラ、さつまいもなどです。地域の方から野菜の育ち方や収穫の方法を教えていただきました。収穫した野菜は、学校給食や地域のイベントなどで活用されることになりました。

活動後、終わりの会では、「地域の皆さまのおかげで、いろいろな野菜をいただけて感謝します」「地域の皆さんと活動できて楽しかった」「野菜のことを教えてください勉強になりました」などの感想がありました。そうしたみんなの御礼のメッセージを模造紙にまとめ、地域の方々お届けしました。

これからも地域の皆さんと一緒に活動をお願いいたします。

これからも地域の皆さんと一緒に活動をお願いいたします。

活動のポイント

学校行事内に地域交流活動を組み入れており、地域の特色を学びながら、地域の方々の仕事をする姿に触れることができます。地域の一員として、自分にできることは何かを考え、行動する主体的な学びになっています。



花咲く丘プロジェクト

地域のシンボルつつじの植栽活動から未来を考える

岡谷市立 岡谷西部中学校

やまびこだより No.157 (2020年度)より



大変だけれど将来が楽しみ！

地域の方とつつじを植樹



学校周辺を彩るつつじ



鶴峯公園



挿し木づくり

岡谷西部中学校では、校舎建て替えにより花などの植物が少なくなったことをきっかけに、学校の未来を考えようと「花咲く丘プロジェクト」の活動を行っています。本年度は「3つの花(夢・環境・個性)を咲かせよう」というスローガンを掲げました。

活動の中心となるのは、岡谷市の市花でもあるつつじです。学校の近くには中部日本一と言われるつつじの名所「鶴峯公

園」があり、また、校歌では「春はつつじの花咲く丘に」と歌われます。このように、学校の周りを地域に親しまれた花でいっぱいに行こうと、昨年度からつつじの植樹と栽培をしています。

これまでに約600本のつつじが植えられ、4～5月にはたくさんのきれいな花を咲かせました。つつじの植樹や栽培を通して、私

たちは地域の方や同窓会、PTAの方々との関わりを深めてきました。

現在は総合的な学習の時間に1年生がつつじの挿し木や染め物に挑戦したり、校友会でも全校をあげて挿し木を中心とした学校の花環境の整備をしたりと、つつじを中心に据えた活動が展開されています。

これらの活動を通して、試行錯誤しながら課題を解決していく力を高めています。

これからも地域の誇りであるつつじに愛着をもって接し続け、花いっぱいの学校にしたいです。



きれいに染まったね。

つつじの染め物にも挑戦

活動のポイント

総合的な学習時間を使い、連続した学び「考え⇨実践⇨振り返り⇨伝える」を実践しています。地域のシンボルつつじを題材とし、環境活動～地域貢献事業等へ取り組みを派生していきます。

* 炭焼きにこめる地域への思い 自然を守り伝統を受け継ぐ地域活動を通して

駒ヶ根市立 中沢小学校

やまびこだより No.156 (2020年度)より

中沢小学校は、正面に雄大な中央アルプスの山々が座す自然豊かな学校で、地域の人の寄付によってつくられました。「子どもは中沢の宝」を合い言葉に、地域の方が小学校「応援隊」として環境整備などで学校に積極的に関わってくださり、縁日「駄菓子屋」、米作り、しいたけ栽培、ザザムシ漁などを通して私たちは地域の人と交流を深めています。

そんな本校の伝統の一つに炭焼きがあります。山からナラの木を切り出し、親

子作業でちょうどよい大きさに整えます。この原木を使い、学校にある炭窯で年4回炭焼きを行います。年度初めの1回目は全校で行います。低学年と高学年が交流しながら窯に詰め、入り口をふさいで点火します。炭化するまでは昼夜を問わず火の当番は欠かせません。6年生が交代で窯の様子



を見、1週間程度で炭ができます。1、2年生が窯から運び、5年生が大きさを切りそろえ、3、4年生が袋詰めして計量します。6年生は全体の流れを見てサポートし、次の炭焼きの準備を行いながら販売活動へとつなげていきます。

私たちは中沢の伝統産業である炭焼きをはじめ、さまざまな活動を通して地域への想いを高め、この豊かな自然を地域の方々と一緒に守っていきたいと思います。

活動のポイント 地域の方が小学校「応援隊」として、環境整備など学校に積極的に関わる関係性があります。地域全体が学びの場として一緒に取り組むみ、風土を作り上げることもつながります。

* 地域と共に美麻で学ぶ 自然豊かな美麻の地で、地域支援隊と学ぶ

大町市立 美麻小中学校

やまびこだより No.152 (2019年度)より

美麻小中学校では、小学生と中学生93人が一緒に勉強しています。同じ学び舎で学習し、行事や集会も全校で行います。給食も全校で一緒にランチルームで食べます。

美麻地区は自然が豊かで、地域の方々と自然を生かした学習をしています。地域に住む「地域支援隊」という方々がいて、学校での授業や行事で一



緒に勉強することもあります。朴葉巻きの学習では、学校の周りにある朴葉をとって作りしました。包み方やひもの結び方も教わり、おいしい朴葉巻きができました。

今年は美麻地区と美麻保育園、美麻小中学校合同で運動会を行いました。午前

中は学校の運動会、午後は地区運動会をしました。地域支援隊の方々も来て、一緒にテント張りや会場の準備をしました。地区運動会では地区ごとにテントで応援をしたり、地元のパン屋さんを作るパンを使ったパン食い競争をしたりしました。

中学生になると地域の方と一緒に総合的な学習の時間の学習をしたり、浴衣の着付けを体験したりするので、私たちも今から楽しみにしています。

活動のポイント 学校行事や地域学習は、世代や学年を超え「地域ぐるみ」で取り組んでいます。学習の素材には、地域の自然や地元店舗の商品など用いる等、地域循環型の学びにつながります。

* 地域が誇る明善中 中学生がスタッフ 地域の行事を盛り上げます

松本市立 明善中学校

やまびこだより No.161 (2021年度)より

明善中学校は、地域との交流を続けています。毎年、夏祭り・文化祭・運動会などの地域行事に多くの生徒がスタッフとして準備から参加しています。

文化祭では合唱を披露してきました。公園清掃や防災訓練にも積極的に参加し、地域の方から「中学生と一緒にいろいろな活動ができてうれしい」と言



っていただいています。年に数回行われる支部生徒会には地域の方をお招きし、行事の内容や地域の課題について考え合う機会を設けています。

3年生は総合的な学習の時間に地域包括支援センターの方を招いて、地域福祉の現状を伺う中で、自分たちに何ができるかを考えました。「まずは挨拶をし、自分から話しかけたい」「地域の活動に積極

的に参加したい」と熱く語り合うことができました。

このような活動を通して、地域の方に明善中生を誇りに思ってもらえるよう、感謝の気持ちを忘れずに日々過ごしています。

地域の人々との交流を大切にす明善中の伝統を、私たちはこれからもしっかりと受け継いでいこうと思います。



活動のポイント 地域の方々との話し合いの場を持ち、地域の一員として自分たちができていることを行動に移しています。地域の行事を担う存在として、中学生は地域にとっても活力になっています。

地域活動に取り組もう！ 地域の文化・歴史・自然に目を向けてみよう



町をきれいにしよう大作戦！

ポイ捨てを減らしたい！ 願いをこめた看板作り

塩尻市立 塩尻西小学校

やまびこだより No.160 (2021年度)より



いろんなごみがあつたね。

市生活環境課の方と一緒にごみ拾い



どんな人にも伝わる看板を作ろう！

市都市計画課の方と完成した看板を設置

塩尻西小学校の総合的な学習では、自分たちのやってみたくことやみんなで力を合わせてできそうなことについて話し合い、各クラス様々な活動に取り組んでいます。

地域に関心をもった昨年度の4年生は「町をきれいにし、住んでいる人みんなに喜んでほしい」という願いをもち、ごみ拾いに出かけました。一番多かったのはたばこの吸い殻で、川には空き缶や中

身の入ったペットボトルもありました。

話し合いでは、「町をきれいにするにはごみ拾いだけでなく、ポイ捨てを減らす呼びかけも大切だ」という意見が出ました。そこで私たちは、ポイ捨て防止を呼びかける看板を作ることにしました。

誰にでも分かりやすく目立つものにするために、友だちと考えたり、家の人や先生方にアドバイスをもらったりしました。「もっ

看板を作成

と目立つ色を使おう」「文字を減らして、見やすくしよう」と、何度も書き直しました。できあがった看板を設置できたときには、うれしい気持ちでいっぱいになりました。大きな効果はすぐには見られませんが、これからもあきらめず、自分たちにできることを続けていきたいです。



活動のポイント

総合的な学習の中で、生徒たちが持った地域への関心や思いを言語化し、皆で共有しています。さらに地域に向けて伝える工夫を行うことで、さらなる仲間、地域の方々とのつながりの輪が広がりを見せています。

届けよう！ 私たちの思い

自分たちのできることを地域のために



みんなに届け！ ぼくらの咲顔

「くらしの中の小さな幸せ」元気いっぱい届けたい！

諏訪市立 豊田小学校

やまびこだより No.162 (2021年度)より



交番にお届け

たくさんの人に
見てほしい



水やり



公民館にお届け



メッセージミニ看板

豊田小学校には、花が咲いているような笑顔という意味の「咲顔」という言葉があります。

私たち3年2組は、総合的な学習の時間に「たくさんのお顔を届けたい」という願いをもち、どんな活動ができるか話し合いました。きれいな花を見る時は、誰もがうれしい気持ちになるのではないかと考え、花を育てることにしました。

早速、理科の先生からマリーゴールドの種を譲っていただき、育て方を調べて植えました。毎日かかさず草取りや水やりを頑張り、夏休み明けには交番と公民館に「メッセージミニ看板」をつけたプランターを届けました。

水やりを続けていると、館長さんや警察の方が「公民館に来た人が、長い間咲い

ているお花を見て喜んでいよ」とか「近くを通る人が、きれいなお花を楽しんでいるよ」と教えてくださいました。私たちの育てた花が、たくさんの人を笑顔にすることがうれしくて、私たちも花に負けないくらいの笑顔になりました。

これからも豊田の地域に「咲顔」が増えることを願って、活動を続けていきたいです。

活動のポイント

生徒たちは、花を通じ地域の方々の笑顔のために活動を行い、地域の方は、花の感想や気持ちを持ちを生徒たちに伝えていきます。相手を思いやる双方向のコミュニケーションは、共生社会への一歩となります。



ふやそう！花と緑とみんなの笑顔

地域の一員として私たちにできること

川上村立 川上第二小学校

やまびこだより No.154 (2020年度)より



花壇づくり(6月)

大きく
なあれ!

種まき



寄せ植え



大切に
咲かせますね

地域の方へプレゼント



満開の花壇(8月)

とっても
きれい!

川上第二小学校は、千曲川源流の一番近くに位置する学校です。川上村はレタス作りが盛んで、夏は村中がレタス畑となり、きれいな景色が望めます。また、地域の方が道沿いに花を植え、さらに色鮮やかです。

そんな素敵な取り組みを私たちもやりたいと、本年度5年生は「学校や地域を花やみどりていっぱいになりたい」という願いを持って、地域ボランティアの方に教えていただきながら花壇づくりや花づくりを

行っています。

花壇づくりでは土作りをはじめ、様々な工程を何度も話し合いながら進めてきました。花々が生き生きと咲いている様子を見ると、苦労した分、喜びや感動が倍わき上がりました。地域の方も学校を訪れて、「とってもきれい!」とってくださいました。花だけでなく“笑顔の花”もたくさん咲きました。

他にも、「育てた花を贈ろう」と、好きな種を蒔いて世話した結果、たくさんの花苗が育ちました。この花苗は、寄せ植えにして『安心の家』の方へ贈ることができました。「大切に咲かせますね、ありがとう」という言葉に、私たちもうれしい気持ちでいっぱいになりました。

これからも川上村の一員として私たちにできることを考え、この地域にあるものや人々とふれあいながら、みんなの“笑顔”をふやしていきたいです。

活動のポイント

生徒が地域活動から学び感じた地域の魅力や現状、仕事のカッコよさ(憧れ)は、今後の彼らの地域活動実践への源になります。活動の振り返りをする中で、継続した福祉・地域活動につながりに役立ちます。



輝け！木島平未来塾

地域の一員として自分たちができることを

木島平村立 木島平中学校

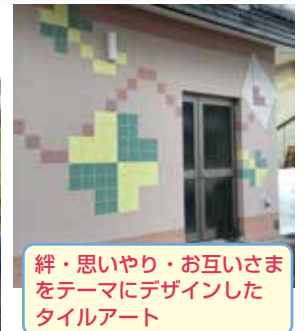
やまびこだより No.158 (2020年度)より



牛乳パックと新聞紙で作った高齢者用踏み台



住民からの依頼を受けた花壇整備



絆・思いやり・お互いさまをテーマにデザインしたタイルアート

木島平中学校では、総合的な学習の時間の一環として「輝け!木島平未来塾」の活動が始まり6年目を迎えています。今年度は、2・3年生が7つの講座に分かれ、地域のもの・ひと・こととつながりながら学習を深めてきました。

「地域のお困り解消隊」(通称:OK隊)の講座では、村民の方々の困っていることを公募し、隊員が現地足運で様々な活動を行いました。昨年度までは、キャ

ンパイイベントのスタッフ、沿道の花壇への花植え、高齢者のお宅の庭の草取り、農家のお手伝いなどなど、村民の方とふれあいながら活動を行ってきました。

今年度はコロナ禍の状況下で自分たちにできることをと、お年寄りの方々の運動機能を低下させないための「踏み台」を作りました。また、今年で3年目となる「アートデザインクラブ」の講座では、毎年多くの依頼をいただいています。村営図

書館の装飾、道の駅オリジナルの缶バッチ、保育園前の飛び出し注意の看板、デイサービス外壁のタイルアートなど、生徒がデザインしたものがかたちとなっています。

面と向かい手を取り合って活動することが難しい状況の中で、住みやすく暮らしやすい村にしていくために、地域の一員としてできることを考え、地域との関わりを大切にしながら、かたちにしていきたいと思っています。

活動のポイント

地域の活動や課題に目を向けた生徒の思いを具体化していくには、地域の現状をコーディネートする役割が必要です。相談先として、お近くの市町村社会福祉協議会・スクールコーディネーター・地域福祉コーディネーターなどがあります。

届けよう！私たちの思い 自分たちのできることを地域のために



地域に積極的に関わる お年寄りとの交流や動物の世話を通して

中野市立 平野小学校

やまびこだより No.162 (2021年度)より



通学路の点字ブロックや段差を調査



リサイクルポイントの活用を提案



校内を視察



懇談の様子

平野小学校は、中野市西部の商業地域の中に建つ学校です。私たちは中野市がもっと住みやすい地域になることを願い、SDGsの学習をしてきました。

その中で、6年生が市長・副市長と懇談する機会をいただき、クラスごと地域の未来について懇談しました。

1組は、安心して登下校できる通学路にするために「点字ブロックや歩道橋の修理、街灯を増やすことについて」、2組は、

環境に良い中野市をめざして「ポイ捨て防止リサイクルボックスの設置やポイントを日用品と交換できるシステムについて」、3組は、人にやさしい平野小学校にするために「埋め込み式LED照明への交換や、木製の机・椅子の利用について」、それぞ

れアイデアを発表しました。

私たちの声を直接市長に届けることで、自分たちが未来のためにできることを真剣に考え、節電・節水・ごみの分別など、すぐにでもできることに積極的に取り組んでいきたいと改めて思いました。

そして、「未来を創っていくのは自分たちだ!」と強く意識するようになりました。

活動のポイント

自分たちの住んでる地域×SDGsの学習を活用し、もっと住みやすい地域とはどのようなものかを、具体的に自分たちができる活動につなげています。今の小さな取り組みと未来がつながっていることが意識されています。



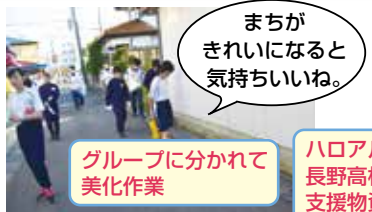
地域から世界へ 企業や高校との協力を通して学ぶ

信州大学教育学部 附属長野中学校

やまびこだより No.157 (2020年度)より



富士通長野工場に集合して作業グループの確認



グループに分かれて美化作業



拾ったゴミの分別作業



困っている人たちが元気に暮らせますように。

「ハローアルソン」は、2005年に発足した「フィリピン医療を支える会」の活動。フィリピンのスラムで、一日をたった100円で生活をする人々を対象に無償の歯科治療と歯ブラシやタオルなどの生活物資の支援を行っています。高校生の現地ボランティアも活躍しています。

信州大学教育学部附属長野中学校は、全校600名、生徒の8割が電車を利用し北信地区全域から通学しています。住む地域は様々ですが、学校のある地域への思いを形にしようと、同じ地域に工場を構える富士通長野工場の皆さんと協力して、地域環境美化作業を行っています。回収されるごみの量が年々減り、地域の環境が改善されていることを実感していま

す。また、昨年度は、本校学友会と長野高校生徒会が連携して「海外医療ボランティア『ハローアルソンプロジェクト』」を実施しました。この活動は、フィリピンへ学用品・歯ブラシ・石けんなどの支援物資を送るものです。貧困のために歯ブラシ

が買えず、8歳にして前歯4本を失った「アルソン君」の存在を知ったことが活動の始まりです。集まった支援物資は、長野高校生徒会の先輩に託し、直接現地へ届けていただきました。

これからも地域とのかかわりを大切に、視野を広くもって取り組むことを大切にしていきたいです。



支援物資収集

活動のポイント

学区内にある企業と学校とが、共に社会貢献に取り組んでいます。生徒たちは、地域社会や世界など新たな広い視野を持つ機会につながっています。ローカルな視点とグローバルな視点を持つ国際人へと繋がっていきます

未来へ向けてのアクション 未来へつなぐために大切なことを意識しよう



地域で取り組む SDGs

地域の良さを発信していくために

飯田市立 竜東中学校

やまびこだより No.163 (2021年度)より



全校で取り組む花壇づくり 52年目を迎えます

今年も素晴らしい花壇になりました!



SDGs 出前講座

達成するために
できることは
何だろう?



「ふるさと竜東の集い」分科会

竜東中学校では、今年度全学年で NAGANO SDGs PROJECT の出前講座を受講し、自分たちの生活と SDGs17 の目標がどのように関わっているのかを学びました。

3学年では受講後、SDGs と生徒会活動をからめて考える中で、毎月実施しているリサイクル活動や残菜を減らす活動、創立当初か



苗の移植

ら取り組んでいる花壇づくりなど、これまでの取り組みが目標 12「つくる責任 つかう責任」や目標 15「陸の豊かさを守る」につながっていることに気づきました。

また、毎年行われている「ふるさと竜東の集い」でも、全校生徒が地域で取り組める

SDGs について、地域の方や 6 年生、保護者の方と共に考えました。SDGs は自分とは遠い関係と思いがちでしたが、身の回りのことに少し取り組むだけで世界を救うことにもつながることが分かりました。

三遠南信道やリニアの開設が進むこの地域で、豊かな自然や人と人とのつながりを大切にしながら、皆で意見を出し合い、地域の良さを発信していきたいと思えます。

活動のポイント

地域社会の変化や豊かな資源を大切にしながら、**誰一人取り残さない社会**にむけて、**未来を担う生徒**と**大人**が意見を交わしています。自分たちの言葉で表現したり、伝統を受け継ぐ活動は、**未来へ向けた大切な 1 歩**です。

NAGANO SDGs PROJECT

NAGANO SDGs PROJECT (長野SDGsプロジェクト) はSDGsの存在を知ってもらい学び、考え、実行してもらうことを活動の軸としており、長野県内で「SDGsを踏まえて考えることのできる人材」を育てることを目的としています。

特に、未来をつくる子どもたちへのSDGs教育に重点を置き、先生向けのSDGsセミナー、県内全学校へのSDGs教材の配布、学校へのSDGs専門家による出前授業などさまざまな取り組みを進めております。

〈SDGsを学ぼう〉

- **公開講座の開催** SDGsのセミナーを定期的に開催。オンラインでの講座、先生や企業向けなどもあります。
- **出前授業** 各種専門家によるSDGsの学ぶ機会を創出、学校向けに出前授業を開催。授業料は無料です。

〈SDGsに取り組もう〉

- **みんなのSDGsの宣言** 企業や学校の取り組みを紹介。誰でも取り組めることがSDGsの魅力、みんなでSDGsに取り組もう!
- **SDGs7ポスター展** SDGsをテーマとしたポスターを募集、その作品を紹介
- **SDGs自由研究** 生徒自身が様々な課題について研究や分析し、その結果をまとめています。研究成果をクリックいただくと研究に至ったワークシートもご覧いただけます。

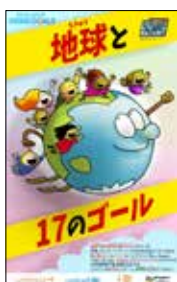
NAGANO SDGs PROJECT
ホームページには様々な取り組みが掲載されています。
<https://www.naganosdgs.jp>



SDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
持続可能な開発目標

持続可能な
開発目標
私たちができること



SDGsのハンドブックは
下記のホームページからダウンロードできます。

- マルフレート・デ・ヘル作『地球と17のゴール』日本語版 能登SDGsラボ <https://noto-sdgs.jp/>
- ハンドブック『私たちが目指す世界 子どものための「持続可能な開発目標 (SDGs)」』日本語版 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン <https://www.savechildren.or.jp/lp/sdgs/>

未来へ向けてのアクション

未来へつながるアクションを意識しよう

福祉教育の実践に向けて

～あなたが担当者だったら～

福祉教育のプログラムを実施するためにはどうすればいいのでしょうか。実践前から実践後までの流れの一例とそのポイントをご紹介します。この流れを意識することで、より気づきや学びが深まります。



【福祉教育のススメ】
長野県社会福祉協議会発行より

まず実践前は…

1 ねらい・目的をはっきりさせましょう

ねらい・目的を決めてしまう前に、福祉教育実践を通して参加者に何を学んでほしいのか、みんなが「ふくし」について考えることでどのような社会にしていきたいのかを考えてみましょう。

これはこれから企画する実践のベースになります。

- 例えば…
- 「日常生活の中で〇〇に配慮できるようになってほしい」
 - 「みんなが〇〇をこう考えるようになってほしい」 など

※学校と(で)実践する場合

学校目標やカリキュラムの目的を参考にしてみると、少しねらい・目的が明確になってくるかもしれません。

抽象的でかまいませんが、これだけは気づいてほしい、考えてほしいということは何かしらあるはずです。他の先生に聞いてみるのもいいかもしれません。

「去年と同じ」は
NGです！



2 情報収集をしましょう

ねらい・目的に対し、現状(強み)や課題を把握しましょう。得た情報は打ち合わせ時に共有し、簡単に意見交換をしましょう。現状(強み)や課題を全員が把握することで、同じねらい・目的をもって取り組むことができます。

- 例えば…
- 「ふくし」について考えるプログラムの場合、事前に参加者に「ふくし」と聞いて何をイメージするか聞いてみる
 - 他の団体や社協で同じような目的・ねらいで実施したプログラムや参考例がないか探し、担当者に留意点等を聞いてみる
 - インターネットで検索してみる
(障がいにはどのようなものがあるのか、福祉施設にはどのようなものがあるのか など)

3 どのような人と協力して取り組むか考え、つながりましょう(プログラムの検討)

福祉教育を実践していくためには、実践者だけでなく講師やボランティア活動者、福祉施設等の協力者が必要です。様々な人とつながり、協力することで、実践者以外の視点を取り入れることができます。まずは自分がどのような活動をしているのかを知ってもらいましょう。

- 例えば…
- 当事者理解を目的としたプログラムを検討している場合
→ 当事者とつながり、目的を共有し、協力を依頼する
 - 福祉施設に行って利用者と関わりたい
→ どのような施設がねらい・目的に合っているか考え、協力を依頼する

4

相手の都合を考えながら事前に打ち合わせを行いましょう (プログラムの作成・実施計画完成)

福祉教育を実践していくためには、実践者だけでなく講師やボランティア活動者、福祉施設等の協力者が必要です。様々な人とつながり、協力することで、実践者以外の視点を取り入れることができます。まずは自分がどのような活動をしているのかを知ってもらいましょう。

※何度も集まって打ち合わせをするのは大変です。プログラムが決まったら、詳細をどのように連絡し詰めていくのかも決めておきましょう。

打ち合わせの内容は5W1H+αで整理！

- | | | |
|---------------------------------|---|------------|
| ① Why ねらい・目的 | + | ●用意する物 |
| ② Who 誰に対して(参加者)、誰と(協力者) | | ●協力者との連絡手段 |
| ③ When いつ | | ●注意事項 |
| ④ Where どこで | | など |
| ⑤ What なにを(プログラムの大枠) | | |
| ⑥ How どのように(プログラム内容の詳細) | | |



実践をするうえでのポイント

5

参加者の感じたことは尊重しましょう

実践を通して参加者が“かわいそうだから助けてあげなくては”“1人では何もできない”などと感じたのであれば、それは1つの考えとして尊重しましょう。ただし、負の印象で終わってしまわないよう、それぞれの個性や相互の助け合いについて気づき、考える時間もつくりましょう。

※特に疑似体験プログラムの場合、負の印象だけで終わりやすいため、何回か連続したプログラムとして活用したり、当事者の方のお話を聞く時間をつくるなどの工夫が必要です。

6

実践者や協力者が参加者の考えを誘導しないよう注意しましょう

参加者の意見を聞く前に、答えを誘導したり提示したりすることで、参加者の考えを妨げる可能性があります。参加者が自らの考えをもち、気づきが生まれるようにしましょう。

例えば… ● 答えを誘導してしまう NG 例

「みなさん、体験してみて大変でしたか？」

「怖かったと感じた人が多いと思います」

「〇〇の人はかわいそうなので、みなさん声をかけてあげましょう」

7

他の参加者の意見も聞けるようにしましょう

他の参加者の意見を聞くことで、自分の考えとの違いに気づき、人それぞれ「感じ方は違っていい」ということがわかります。

8 参加者や実践者・協力者もふりかえりの時間を作りましょう

実践を通して何を感じ、何に気づいたのか、またそれを今後の生活にどう活かしていきたいのかなど、気持ちを整理しながら他の人がどう感じたのかも聞けるようにしましょう。ふりかえることで新たに気づくこともあります。参加者だけでなく、実践者や協力者もふりかえりを行い、今後の実践をよりよくするためのヒントを探しましょう。

例えば…

参加者のふりかえりでは

- 参加してどのような気づきや学びがあったか
- 疑問に残ったことはあったか
- 実践中にどのような人と関わったか
- 自分の今後について何を思ったか
- 今回の気づきや学びを参加していない人に対してどのように伝えていくか
- 他の人と意見交換ができたか

例えば…

実践者・協力者のふりかえりでは

- ねらい・目的は達成できたか
- 参加者の反応はどうだったか
- 様々な人と協力して実践できたか
- 参加者と一緒に体験・学習できたか
- 実践を通して何を気づき、学んだか
- 今後に向けた課題や目標はあるか
- どのように次につなげていくか

9 繰り返して行いましょう

その時々環境や気持ちが変われば感じ方も変わるように、一度目で気づけなかったことを二度目で気づくこともあります。同じテーマでも少しずつ実践方法を変え、多くのことに気づけるよう工夫をしましょう。

実践事例の情報サイト

小学生ボランティア新聞 中学生ボランティア新聞

やまびこだより

発行：長野県社会福祉協議会
編集協力：信濃教育会

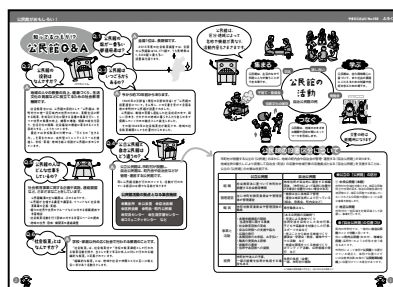


本紙

長野県内の小・中・特別支援学校の児童・生徒のみなさんと先生方に、ボランティアや自分たちの暮らす地域に興味を持っていただきたく、発行している壁新聞です。学校、地域、家庭で活かせる多様な福祉教育、ボランティア活動のメッセージを発信し、総合学習などの事前学習に活かせるトピックスを提供しています。

バックナンバーが
ダウンロードできます

長野県社会福祉協議会ホームページ
<http://www.nsyakyo.or.jp/vola/education.php>



ふろく（解説書）
本紙特集の解説と情報源を掲載

記事	種別	ふろく	音訳
2019年春号	長野県福祉文化祭（2019年）の開催報告	あり	あり
2019年春号	長野県福祉文化祭（2019年）の開催報告	あり	あり
2019年春号	長野県福祉文化祭（2019年）の開催報告	あり	あり
2019年春号	長野県福祉文化祭（2019年）の開催報告	あり	あり
2019年春号	長野県福祉文化祭（2019年）の開催報告	あり	あり

記事の音訳データも
ダウンロードできます

福祉教育 取り組みへのヒント

お住いの市町村社会福祉協議会・ボランティアセンターにご相談ください

講座・体験プログラム



福祉を題材とした「学び」のお手伝いをします！

「福祉で学ぶ！」訪問講座事業

長野県社会福祉協議会 福祉人材センター



福祉の職場の様子や仕事のやりがい、共に生きる地域づくりの大切さを知っていただくため、皆さまの学校や職場など講師を派遣するものです。小学生・中学生・高校生・その他の保護者、社会人など学校の通常授業、課外授業やクラブ活動、職場、サークル等でもご利用できます。



総合的な学びの時間、ボランティア活動など
ふくし・学びのプログラムづくりに
ご活用ください。

問合せ＊市町村社会福祉協議会

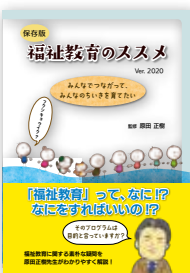
BOOKS



県内の人権教育・同和教育の副読本

『あけぼの ～人間に光あれ～』

発行／長野県同和教育推進協議会



地域における福祉教育推進のために

【保存版】

福祉教育のススメ ver.2020

発行／長野県社会福祉協議会

福祉教育って何をすればいいの？
福祉教育の素朴な疑問に答えます。



長野県社協HPから
ダウンロードできます。

活動

福祉を題材とした「学び」のお手伝いをします！

信州あいサポート運動 あいサポーター研修



あいサポーターとは、様々な障がいの特性や障がいのある方が困っていること、それぞれに必要な配慮を理解して、日常生活においてできる範囲でちょっとした手助けをする意欲がある方であれば、誰でもなることができます。自分のできる範囲で活動していただきます。

■講座内容：障がいの有無にかかわらず、共に生きる社会のあり方を理解し、障がいのある方に対してちょっとした手助けや配慮を学び考えます。

問合せ＊長野県健康福祉部 障がい者支援課



パラスポーツをツールとして共生社会を創造するプロジェクト

パラ学 パラウェイブ NAGANO プロジェクト



障がいの有無や年齢、性別を問わず誰もが一緒に楽しむことができるパラスポーツをツールとして共生社会を創造するプロジェクト。中でもパラ学は、座学、県独自のパラスポーツ体験及び出前授業等を通して、児童の「多様性」と「しなやかな心」を育むことを目的としたプログラムです。

問合せ＊長野県健康福祉部 障がい者支援課



小中学生もサポーターに！ より詳しく学んでみよう

認知症サポーター養成講座

認知症サポーターとは何か特別なことをする人ではありません。認知症について正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人やその家族を温かい目で見守る「応援者」です。その上で、自分のできる範囲でサポーターとして活動します。



■講座内容：認知症を正しく理解するための学びと、日常の中でのサポートや見守りの心構えなどを学びます。

問合せ＊各自治体 地域包括支援センター等





地域とつながる第一歩!

まずはお近くの社会福祉協議会・ボランティアセンターへご相談ください。

市町村	名称	電話	市町村	名称	電話	市町村	名称	電話
長野市	長野市ボランティアセンター	026-227-3707	小海町	小海町社会福祉協議会	0267-92-4107	喬木村	喬木村社会福祉協議会	0265-33-4567
松本市	松本市ボランティアセンター	0263-25-7345	佐久穂町	佐久穂町ボランティアまちづくりセンター	0267-86-4273	豊丘村	豊丘村ボランティアセンター	0265-35-3327
上田市	上田ボランティア地域活動センター	0268-25-2629	川上村	川上村社会福祉協議会	0267-97-3522	大鹿村	大鹿村社会福祉協議会	0265-39-2865
上田市	丸子ボランティア地域活動センター	0268-43-2566	南牧村	南牧村ボランティアセンター	0267-96-2363	上松町	上松町社会福祉協議会	0264-52-3560
上田市	真田総合福祉センター	0268-72-2998	南相木村	南相木村社会福祉協議会	0267-78-1001	南木曾町	南木曾町ボランティアセンター	0573-75-5516
上田市	武石ボランティア地域活動センター	0268-85-2466	北相木村	北相木村社会福祉協議会	0267-77-2111	木曾町	木曾町社会福祉協議会	0264-26-1116
岡谷市	岡谷市ボランティアセンター	0266-24-2121	軽井沢町	軽井沢町社会福祉協議会ボランティアセンター	0267-45-8113	木祖村	木祖村ボランティアセンター	0264-36-3441
飯田市	飯田市ボランティアセンター	0265-53-3182	御代田町	御代田町ボランティアセンター	0267-32-1100	王滝村	王滝村社会福祉協議会	0264-48-2008
諏訪市	諏訪市ボランティア・市民活動センター	0266-54-7715	立科町	立科町町民活動センター	0267-56-1825	大桑村	大桑村ボランティアセンター	0264-55-3755
須坂市	須坂市福祉ボランティアセンター	026-248-5606	長和町	長和町社会福祉協議会	0268-88-3069	麻績村	麻績村社会福祉協議会	0263-67-3099
小諸市	小諸市市民活動・ボランティアサポートセンター	0267-26-0315	青木村	青木村社会福祉協議会	0268-49-2129	生坂村	生坂村福祉ボランティアセンター	0263-69-1122
伊那市	伊那市ボランティア・地域活動応援センター	0265-73-2544	下諏訪町	下諏訪町社協生活応援センター	0266-27-8886	山形村	山形村ボランティアセンター	0263-97-2102
駒ヶ根市	駒ヶ根市社会福祉協議会	0265-81-5900	富士見町	富士見町ボランティアセンター	0266-78-8986	朝日村	朝日村社会福祉協議会	0263-99-2340
中野市	中野市社会福祉協議会	0269-26-3111	原村	原村社会福祉協議会	0266-79-7228	筑北村	筑北村ボランティアセンター	0263-66-2506
大町市	大町市ボランティアセンター	0261-22-1501	辰野町	辰野町ボランティアセンター	0266-41-5558	池田町	いけだボランティアセンター	0261-62-9544
飯山市	飯山市社会福祉協議会	0269-62-2840	箕輪町	みのわふれ愛センター(箕輪町ボランティアセンター)	0265-70-1061	松川村	松川村ボランティアセンター	0261-62-9000
茅野市	茅野市社会福祉協議会	0266-73-4431	飯島町	飯島町ボランティアセンター	0265-86-5511	白馬村	白馬村ボランティアセンター	0261-72-7230
塩尻市	塩尻市社会福祉協議会地域福祉推進センター	0263-52-2795	南箕輪村	南箕輪村ボランティアセンター	0265-76-5522	小谷村	小谷村ボランティアセンター	0261-82-2430
佐久市	佐久ボランティアセンター	0267-64-2426	中川村	中川村社会福祉協議会	0265-88-3552	坂城町	坂城町ボランティアセンター	0268-82-2551
佐久市	臼田ボランティアセンター	0267-82-4332	宮田村	宮田村ボランティアセンター	0265-85-5010	小布施町	小布施町ボランティアセンター	026-242-6665
佐久市	浅科ボランティアセンター	0267-58-0383	松川町	松川町地域ボランティアセンター	0265-36-3778	高山村	高山村社会福祉協議会	026-242-1220
佐久市	望月ボランティアセンター	0267-51-1520	高森町	高森町ボランティアセンター	0265-34-3001	信濃町	信濃町ボランティア・まちづくりセンター	026-255-5926
千曲市	千曲市ボランティア・市民活動交流センター	026-276-2687	阿南町	阿南町ボランティアセンター	0260-22-3151	飯綱町	飯綱町ボランティアセンター	026-253-1001
東御市	東御市社会福祉協議会ボランティアセンター	0268-62-4455	阿智村	阿智村社会福祉協議会ボランティアセンター	0265-45-1234	小川村	小川村社会福祉協議会	026-269-2255
安曇野市	安曇野市ボランティアセンター 本所	0263-72-1871	平谷村	平谷村社会福祉協議会	0265-48-2220	山ノ内町	つつみ住民活動センター	0269-33-2810
安曇野市	安曇野市ボランティアセンター 明科支所	0263-62-2429	根羽村	根羽村社会福祉協議会	0265-49-2288	木島平村	木島平村ボランティアセンター	0269-82-4888
安曇野市	安曇野市ボランティアセンター 堀金支所	0263-73-5288	下條村	下條村社会福祉協議会	0260-27-2858	野沢温泉村	野沢温泉村社会福祉協議会	0269-85-4347
安曇野市	安曇野市ボランティアセンター 穂高支所	0263-82-2940	売木村	売木村社会福祉協議会	0260-28-2004	栄村	栄村ボランティアセンター	0269-87-3450
安曇野市	安曇野市ボランティアセンター 三郷支所	0263-77-8080	天龍村	天龍村社会福祉協議会	0260-32-2277			
安曇野市	安曇野市ボランティアセンター 豊科支所	0263-73-7143	泰阜村	泰阜村社会福祉協議会	0260-26-2162			

発行日：2022年3月31日

発行：社会福祉法人 長野県社会福祉協議会

〒380-0936 大字中御所字岡田98番地 1

ホームページ <http://www.nsyakyo.or.jp>

〈福祉教育〉

まちづくりボランティアセンター

TEL.026-226-1882 FAX.026-227-0137

E-mail : vcen@nsyakyo.or.jp

〈福祉キャリア教育〉

福祉人材センター

TEL.026-226-7330 FAX.026-227-0137

E-mail jinzai@nsyakyo.or.jp